



原っ子つうしん

目には見えないけれど大切なもの「命」「思いやり」「一生懸命」

令和7年

2月5日（水）

印西市立原小学校

校長室便り

〈第10号〉

<学校教育目標>

人間性豊かな、考え行動できる心身ともにたくましい子どもの育成

～自らの可能性に挑戦する活力ある原っ子～

パラスポーツ体験

先日、4年生は総合的な学習において、順天堂大学の先生を招いて、「パラスポーツ」を体験しました。ご存じのように、パラスポーツとは、障害のある人のために考えられたスポーツや障害の有無に関わらず取り組めるスポーツについて広く表す言葉です。一般のスポーツのルールを一部変更したり、用具を用いて工夫したりすることで、楽しく安全にスポーツを行えるようにしているほか、ボッチャなど、もともと障害のある人のために考え出されたスポーツもあります。



4年生は、この学習を通して様々なことを学びました。私たちは一人一人違います。いろいろな人が住みやすい社会をつくっていかねばなりません。そのためにも、自分が

パラスポーツのはじまりは？

障害のある人々がスポーツを行っていたという記録は紀元前から見られるそうで、19世紀以降のヨーロッパでは障害のある人々がクラブを作るなど活動が発展していき、初の国際的な大会として、1924年にパリで第1回国際ろう者スポーツ競技大会が開かれました。1948年ロンドンオリンピックに合わせて、第二次世界大戦で主に脊髄を負傷した兵士たちのリハビリテーションの一環として行われたアーチェリー競技大会がパラリンピックの原点となったそうです。

できること、みんなで協力してできることを考えて行動していくことが大切だと思います。将来、そのようなことができる児童をめざし、職員一同努力してまいります。

以下は、昨日の全校集会で、私が児童に伝えた話です。

先日、2025年のアメリカ野球殿堂表彰に元メジャーリーガーのイチローさんが選ばれたことは、知っている人も多いかと思います。300人以上の野球の専門家たちに選ばれたのですが、一人だけ賛成しなかった人がいたのです。その1票足りなかったことに対して、イチローさんはこう言いました。「すごく良かったと思う。自分なりの完璧を追い求めて進んでいくのが人生。やっぱり不完全はいいなって。」その言葉を聞いて私は、イチローさんは『生きていく上で、不完全だから進もうとできる。』と考えているのだなと思いました。

イチローさんは以前、このようなことも言っていました。「『夢を掴むこと』というの是一気にはできない。小さなことを積み重ねることで、いつの日か信じられないような力を出せるようになっていく。」つまり、こつこつと地道に努力することの大切さを言っています。

確かに、勉強でも運動でも、全部100点満点だったり、試合に一度も負けたことなかったりという人は、いないと思います。「100点」、「優勝」という『結果』も良いですが、100点をとるために、優勝するために、それまで努力したこと、辛くても苦しくてもやり続けた経験、そういうことの方がもっと大切だと思います。

原小学校の皆さん、今一生懸命やっていることや、これからやりたいと思っていることはありますか？結果だけが全てではありません。毎日の積み重ねを大切に地道に取り組み、こつこつと努力することを忘れないでください。

【お願い】 本校教職員の勤務時間は、8時00分から16時30分となっております。大変恐縮ですが、働き方改革の観点から、今後緊急な場合を除き、勤務時間以降の電話連絡や来校等は、できるだけ控えていただきますよう、ご理解・ご協力をお願いいたします。